

令和4年度第3回喜多方市総合教育会議議事録

1 日 時 令和5年1月12日（木） 14:15～15:40

2 場 所 喜多方市役所 2階 庁議室

3 出席者

（構成員）	市	長	遠	藤	忠	一
	教育委員会	教育長	大	場	健	哉
	教育委員会	委員	遠	藤	一	幸
	教育委員会	委員	高	橋	明	子
	教育委員会	委員	長	田	聡	子
（事務局）	企画政策部	部長	小	野	幸	一
	企画調整課	課長	佐	藤	利	則
	企画調整課	課長補佐	齋	藤		哲
	企画調整課	副主査	齋	藤	翔	太
	教育部	部長	遠	藤	紀	雄
	教育総務課	課長	佐	野	仁	美
	文化課	課長	伊	藤	博	之
	文化課	主幹	鈴木	美智		子
	文化課	課長補佐	高	畑	知	史
	文化課	主査	蓮	沼	優	介

4 欠席者

大森佳彦委員

5 協議事項

(1)喜多方市文化芸術推進基本計画（案）について

(2)喜多方市文化財保存活用地域計画（案）について

6 内 容

●小野企画政策部長

ただいまより、令和4年度第3回喜多方市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、遠藤市長よりごあいさつ申し上げます。

●遠藤市長

教育委員の皆様におかれましては、ご多用のなか、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市教育の充実のためにご尽力いただき、心より感謝を申し上げます。

さて、本市には、歴史的建造物や街並み、受け継がれてきた伝統芸能、暮らしの中にある生活文化など、魅力的な地域資源が豊富に存在しております。特に、今年度は「会津型ミュージアムウィーク」や「将棋の日」などを開催し、本市が誇る身近な文化に触れていただく機会を創出してまいりました。

こうした取組を行いながら、今年度「文化芸術推進基本計画」及び「文化財保存活用地域計画」の策定を進めてきたところであり、両計画の策定により、文化のかおり高い、本市ならではのまちづくりを一層推進してまいりたいと考えております。

本日の会議では、文化芸術推進基本計画(案)及び文化財保存活用地域計画(案)について協議してまいりたいと存じますので、教育委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

●小野企画政策部長

ありがとうございました。続きまして、「3 協議事項」に入ります。

喜多方市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、市長のもとで、議事の進行をお願いいたします。

●遠藤市長

それでは、協議事項に入ります。

はじめに、「(1)喜多方市文化芸術推進基本計画(案)について」所管課より説明をお願いします。

●伊藤文化課長

それではお手元にお配りしております「喜多方市文化芸術推進基本計画(案)」の概要版をご覧ください。本計画は第1章から4章までの構成となっております。

はじめに、第1章「計画の策定にあたって」であります。計画策定の趣旨であります。本市の豊富な歴史文化資源や地域資源を活用した文化芸術活動を積極的に行い、市民の郷土に対する誇りや愛着を高め、文化芸術の持つ創造性により日常の中に文化芸術あふれる喜多方らしいまちづくりを進め、市総合計画に示す将来像「力強い産業 人が輝く 活力満ちる安心・快適なまち」の実現に向け、本計画を策定するものとしております。計画の性質としては5つあり、1つ目に文化芸術基本法に規定する地方文化芸術推進基本計画として策定します。2つ目に障害者による文化芸術活動の推進に関する法律に規定する市町村推進計画を兼ねることとなります。3つ目

に市教育振興基本計画の個別計画であることです。4つ目に市文化財保存活用地域計画を並行して策定することです。そして5つ目にSDGsの基本的な考え方を踏まえるものとするのであります。計画の期間であります、令和5年度から9年度までの5年間となります。対象とする文化芸術の範囲であります、芸術など資料に記載する項目のものとしております。

続きまして、第2章「喜多方市の文化芸術を取り巻く環境」でございます。

第2章におきましては、国・県の動向を踏まえ、また、本市の文化芸術のこれまでの背景を踏まえまして記載しております。まず、「喜多方美術倶楽部」の結成が大正7年でありました。そして、「セピロマ会」の発足が昭和21年でありました。「喜多方発21世紀シアター」「蔵のまちアート展ぶらり」の開催が平成12年からであります。また、「創造都市ネットワーク日本」への加盟が平成29年であり、「文化芸術創造都市推進事業（会津型）」の実施が令和2年度から行っているところであります。

このような背景等を踏まえまして、文化芸術の推進に取り組むべき課題について、整理してございます。まず1つ目に、文化芸術に係る機会の充実を図ること。2つ目に、文化芸術を支える人材や団体などの育成、環境の整備を図ること。3つ目に、子どもの頃から身近な文化芸術に触れる機会を創出すること。4つ目に、歴史文化資源の保存、継承と活用を図ること。そして5つ目に、情報収集・発信を強化すること。以上の5つを課題としております。

この課題等から、第3章「計画の体系」についてお示ししております。

まず、基本理念であります、「文化芸術で出会い、育む 喜多方の ひと・まち・みらい ～文化芸術創造都市の形成～」ということで掲げております。

次に計画の体系図についてであります、左側から基本目標、施策目標、施策の柱、主な取組として記載しております。なお、計画の文化芸術の対象の範囲については第1章でもご説明しましたとおり、文化財等も含んでおります。体系図の基本目標2「歴史文化資源をみんなでまもり・いかし・つなげる」の部分については、文化財の保存・活用に関する内容でありまして、本計画とは別に策定する「喜多方市文化財保存活用地域計画」であるため、本日の議題の(2)の際に説明させていただきます。

そして第4章「推進体制及び進捗管理」であります、推進体制につきましては、市民や市、団体、事業者などとの連携・協働としており、それぞれの役割を示しながら、本市の文化芸術を推進してまいりたいと考えております。進捗管理につきましては、文化芸術推進審議会（仮称）を令和5年度から設置をしたいと考えており、併せまして、市の行政評価や教育委員会の点検・評価によりまして、内容の進捗管理等をしていきたいと考えております。

喜多方市文化芸術推進基本計画（案）の概要の説明については以上となります。

●遠藤市長

ありがとうございました。

ただいま所管課より「(1)喜多方市文化芸術推進基本計画（案）について」説明がありました。委員の皆さまからご意見等あればお願いします。高橋委員。

●高橋委員

大きな計画であり、この計画通りに進んでいけば良いと思いますが、計画を作るところまでを目的としないで、今後どのように推進していけるかが大きな課題になってくると考えます。そしてどうしても教育委員会だけで進めていくことはできない内容だと思います。まちづくりや観光などの内容も入ってくるので、全体的に力を入れてほしいと考えます。

●遠藤市長

これについて回答願います。文化課長。

●伊藤文化課長

計画策定後の推進については非常に重要と考えております。本計画の名称が「喜多方市文化芸術推進基本計画」としてありますが、最終的には、文化芸術の創造性を生かしたまちづくりの内容につながっていくと捉えております。それには教育委員会だけでなく、庁内全体、各関係機関等との連携も必要であると考えており、また、「文化芸術コーディネーター」といった方を含めた組織を立ち上げることでよりスピーディーに文化芸術の推進が図れるものと捉えております。こうしたことなどを踏まえながら、計画を推進してまいりたいと考えております。

●遠藤市長

他にありますでしょうか。長田委員。

●長田委員

概要版ではなく計画本体の内容になりますが、最後のページに市民アンケートの内容が記載されています。この内容を見ると、多くの市民の方が文化芸術に対して興味がないわけではなく、むしろ参加したい、集いたいという考えでいることに大変感激しました。

ただいつも思うのは、市の会議に出ている年代層がとても高く、若い世代の方がほとんどいないように見受けられます。男女共同の部分は意識して取り組まれているようですが、各年代層の意見（特に若い世代の意見）を聞ける場をぜひ設けていただきたいと考えております。

ミュージアムウィークなどでは、市内の高校生が参加されています。若い世代が参加できる機会の創出も必要と思いますので、ぜひ力を入れて欲しいと考えます。

●遠藤市長

ただいまの意見に対して、何か考え方等ありますでしょうか。文化課長。

●伊藤文化課長

本計画の策定にあたり、若い世代や子育て世代から意見をいただきたいということで、子育てワークショップ等を開催しながら、意見を集約してまいりました。しかし、ワークショップ等にお越しいただいた方は少なかったと考えております。今後は

こうしたことを地道に行いながら、より多くの意見をいただき、施策の中に若い世代の声を取り込んでまいりたいと考えているところであります。また、アイデミきたかたには多くの子育て世代の方が来ているため、そういった施設も活用しながら、意見の集約や積極的に参加してもらえる機会を作ってまいりたい考えであります。

●遠藤市長

他にありますでしょうか。高橋委員。

●高橋委員

第2章「喜多方市の文化芸術を取り巻く環境」の取り組むべき課題のところですが、「子どもの頃から身近な文化芸術に触れる機会を創出すること」とありまして、これは歴史や文化を保存すること、未来につなぐという点ではとても重要と感じました。若い世代がさまざまな機会に参加することは重要ですが、そういった若い世代がただ参加するだけでなく、参加して学んだことを生かせる場というものをぜひ作ってほしいと考えます。

●遠藤市長

これについて当局どうでしょうか。文化課長。

●伊藤文化課長

やはり若い世代の親が興味をもたないと、子どもにも伝わらないと考えております。学校教育の中で取り入れていくことも手段の1つと考えており、また、親世代にも積極的に呼びかけていきたいと考えております。

また、具体的に生かす場としまして、次年度に伝統的建造物群保存地区の北海道・東北ブロック会議が予定されており、それが喜多方市で行われることとされております。2日間の日程で行われ、1日目は総会や講演会を行いまして、2日目は現地視察を行う予定です。現地視察には市内の小・中学生に現地ガイドを行っていただくことを考えており、それに携わるには勉強も必要になってまいりますので、そういったことを通して地元を知っていただきながら、発表する機会を設けることで、次の世代につないでいけるものと捉えております。こうした事を含め、機会を捉えながら少しずつ関わりをもてるよう取り組んでまいりたい考えであります。

●遠藤市長

その他ありますでしょうか。長田委員。

●長田委員

先ほどのアンケートの内容に関連してですが、計画本体にも記載されているとおり、市民アンケートの有効回答率が26.4%でとても低いと感じました。関心のあの方が回答していると思いますが、一般的な市のアンケートの回答率と比べた際に、この数値は低いのでしょうか。回答率が上がる方法を検討していただきたいと感じました。

●遠藤市長

この内容について回答をお願いします。企画政策部長。

●小野企画政策部長

市民アンケートの内容についてでありましたが、市で毎年、「行政サービスに対する満足度アンケート」を1,400人対象に実施しておりまして、各年代層に対して送付しているところです。今年度については約4割（38.9％）の回答率でありまして、そこまで高くはない状況となっております。年代別の回答状況を見ましても、60～70代の回答が多い状況となっており、子育て世代や仕事をされている世代の回答率が低い状況と感じているところであります。

アンケートの回答率を上げる方法としまして、市でもさまざま検討しているところではあります。現在はWEBによる回答にも取り組んでいるところです。これにより、回答率が上がっている部分もあります。また、子育て世代の回答率を上げる方法として、学校を通して回答していただくことも1つあると考えております。幅広く意見を集約するという点では難しい面もあるところですが、今後もさまざまな工夫を凝らしながら、回答率向上に努めまいりたい考えであります。

●遠藤市長

他にありますでしょうか、遠藤委員。

●遠藤委員

企業でもDXという言葉が流行ってきているところであり、自治体でもDX推進に力を入れているところが増えてきていると感じております。人々の生活をより良いものに変えていくというのがDXだと考えておりますが、主な取組として何かあるでしょうか。

●遠藤市長

この意見についてどうでしょうか。企画政策部長。

●小野企画政策部長

DXの推進の内容でありますので、回答させていただきたいと思います。

現在、国がDXの推進に力を入れているところでありまして、本市におきましてもDX推進のため、今年度末を目途にDX推進計画を策定したい考えで進めております。DXにつきましましては、デジタルトランスフォーメーションという事で、デジタルを活用した改革、変革であり、今までの考え方を改めて市民へのサービス向上や福祉向上を目指すものであります。まずは市の事務事業の効率化に取り組むことが1つであり、市民サービスの向上であれば「書かなくていい市役所」「待たなくていい市役所」「来なくていい市役所」ということで、紙で書かなければならなかったことをスマホ等で入力することで申請等を行える、支払いについてはキャッシュレスで行えるものが全国でも始まっております。

本市におきましても、近い将来にはそういったものが必要であると捉えているところでもあります。また、地域の発展や活性化に資する取組についても計画の中に取り入れ、ロードマップも作成しながら取り組んでいけるよう、検討を進めております。

「喜多方市文化芸術推進基本計画」の中にも「情報発信」という項目があり、多様

な広報媒体による即効性のある情報発信やICTを活用した多彩な情報発信、アクセシビリティに配慮した情報発信などもあり、その他にもアーカイブ化やバーチャリアリティ（VR）等という取組もありますので、こういった内容も踏まえつつ、DX推進計画の検討を進めてまいりたい考えであります。

●遠藤委員

実際に物に触れたりすることも大切だと思いますが、デジタルの活用も重要と考えておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

●遠藤市長

ほかにありますでしょうか。高橋委員。

●高橋委員

DXの内容に関連して、ぜひWi-Fiを整備していただきたいと考えます。

●遠藤市長

この意見についてどうでしょうか。企画政策部長。

●小野企画政策部長

一部商店街にはWi-Fiが無料で使えるよう本市の観光交流課を中心として進めております。会津地域であれば、会津美里町において全域にWi-Fiが使用できる取組を行っておりまして、公設民営のもので、通常の携帯キャリアよりも安い料金で契約することが出来て町内どこでもWi-Fiを使用できる取組を行っております。

本市においても、DXの推進や観光誘客などを考えれば、Wi-Fiの整備が重要となっておりまして、経費の面も考慮しながら検討していきたいと考えております。

●遠藤市長

コロナ禍になり、地域のコミュニティが欠如している状況であり、いかにして市民へ情報発信をしてDXや文化芸術を推進していけるかが課題の1つと捉えております。より良い地域づくりを目指していくため、第4章の「推進体制及び進捗管理」にある文化芸術推進審議会（仮称）の役割というものは非常に大きなものと考えますが、現段階で推進体制メンバーはどういった方を検討しているのでしょうか。

●伊藤文化課長

本計画策定後の進捗管理をする当審議会のメンバーについては、福島県立博物館や観光物産協会、会津喜多方商工会議所などを予定しております。

●遠藤市長

先人の思いを引き継いで、次の世代につないでいくことが重要でありますので、計画推進にあたり、関係各位のご協力等お願いしたいと思います。また、喜多方独自のものとして思い切ったことをやってほしいと考えております。

その他の意見等について、教育長は何かありますでしょうか。

●大場教育長

大正7年に結成された「美術倶楽部」は現在も残っておりますが、そういったものを今後どのように引き継いでいくのか、伝えていくのか、残していくのかを考えてみ

ると、やはり子どもたちが何らかの形で触れる機会がなくてはならないものと考えます。また、このほかに、芸術や美術、文化財などをさまざまな人につなげていくことも大切だと考えます。喜多方のまちづくりのために、関係団体の方々が会議や話し合いの場に参加し、それぞれでどういったことができるのかを考えていかなければ計画をつくっただけで終わってしまいます。市役所内でも連携して取り組んでいき、より良いまちづくりを考えていくことが重要であると感じます。

●遠藤市長

ありがとうございます。そのほかに何かありますでしょうか、高橋委員。

●高橋委員

歴史や文化財というものは過去のもので自分のものではないという感覚があります。文化財を保存するのは行政であり、いわゆる他人事として今まで生きてきたような気がしています。

●大場教育長

今ほどの話と学力というものを考えた時に、「見える学力」と「見えない学力」という言い方がありますが、私は「見えない学力」が大切であると考えております。単に学校で学ぶ知識ではなく、それを後ろから支えてくれるものが「見えない学力」というものでありますが、子どもの頃にさまざまな文化財等に触れ、自分で何かを感じ、時にはそれを造形の中で表したり思いを持ったりすることで、人間としてすごく伸びると思います。このことから、教育の立場としても文化芸術というものは非常に重要であり、必要なものであると考えております。

福島県は学力が低いと言われていますが、その要因の1つとして文化財（美術館や博物館など）の距離が1人1人から遠いものとなっていることがあります。逆に石川県や富山県は学力が高く、それはそういった文化財と人との距離が近いそうです。学力という言い方だけではなく人間力を支えることでは大切なものと思っております。

喜多方市においても、会津型をはじめとする文化芸術に触れる活動を増やしていければと感じております。

●遠藤市長

絵に描いた餅とならないよう、ぜひ計画の推進に努めていただきたいと考えます。推進にあたっては行政だけでなく、市全体で取り組んでいきたいと考えます。

その他にありますでしょうか、高橋委員

●高橋委員

現在初市が開催されているようですが、こうした身近で行われているものに参加できる取組ないのででしょうか。

●小野企画政策部長

昔のことではありますが、塩川町であれば1月15日に初市と舟引き祭りが行われ、子どもたちはその日に学校が半日休みになり、行事に参加するということがありました。これにより、地元の行事や文化を知る・理解することにつながるものとなってお

ります。

●遠藤市長

昔は子どもたちがお金を持って初市に参加することで、お金の大切さを理解することを行っていました。今は行っていないのでしょうか。

●大場教育長

現在は授業の時数が厳しい実態があることから行っていない状況となっています。

●長田委員

子どもたちだけでなく、市役所職員も地元の行事等を知らないことが多いと思います。地元のイベントに参加する機会が増えれば、歴史や文化などをより身近に触れることができ、文化芸術の各種取組に反映していけるものと思います。

●遠藤市長

今ほどの意見についてどうでしょうか。企画政策部長。

●小野企画政策部長

職員が目を見て、肌で感じて、実際に取り組むことは非常に大切なことと考えております。そうしたことにより、現場の苦労を理解したり、改善点を見つけたりすることができると思います。本市では、新採用職員がボランティアとして市が実施しているイベント等に参加することを行っております。今後もこうした取組を続けていきたいと考えているところであります。

●遠藤市長

その他ありますでしょうか。なければ、「(1)喜多方市文化芸術推進基本計画（案）について」は、このような形で進めていくこととします。

それでは続きまして、「(2)喜多方市文化財保存活用地域計画（案）について」所管課より説明をお願いします。

●伊藤文化課長

「喜多方市文化財保存活用地域計画（案）」についてご説明いたします。こちらについても概要版をご説明させていただきます。

はじめに、「1 喜多方市文化財保存活用地域計画とは」になります。本計画につきましては、本市の文化財の保存と活用を総合的に実施するため、文化財保護法に基づいて作成する基本計画及び行動計画であります。

続きまして、「2 計画対象・計画期間」についてであります。本計画では、指定・未指定に関わらず、文化財保護法が定義する文化財に相当する、本市の魅力を市内外に発信するための資源としての可能性を有するものを「歴史文化資源」と定義付けて計画対象とします。計画期間については、令和5年度から9年度の5年間としておりまして、この期間を第1期としております。

続きまして、「3 喜多方市にある歴史文化資源」でありまして、ここでは指定等文化財と未指定文化財の2つに区分しております。指定等文化財につきましては、市内に201件あります。未指定文化財につきましては、現在1,451件把握しておりまして、

今後更なる調査をしていきたいと考えております。

続きまして、「4 喜多方市の歴史文化の特徴とは」であります。歴史文化とは、地域固有の風土の下、先人によって生み出され、現代まで伝えられてきた知恵や経験、環境等を総体的に把握したものであります。歴史文化の特徴を見出すことで、歴史文化資源の保存・活用の方向性を検討することができます。本市の歴史文化の特徴としては、3つで考えられます。

①地理的な視点として「会津盆地“キタカタ”の出入口」、②人々の営みの視点として「商いのまち“喜多方”」、③文化的な視点として「会津“北方”の信仰とくらし」ということで、3つの特徴を記載してございます。

続きまして、「5 この計画が目指す将来像」であります。本計画の将来像は、「地域の特色ある歴史文化資源をみんなでまもり、いかし、一つにつながるまち喜多方」としております。これを目指しまして、「まもる」「いかす」「つながる」という視点から課題を抽出しまして、方針と措置（具体的事業）を設定し、本市の歴史文化資源の保存・活用を進めていくこととしております。

続きまして、「6 文化財保存活用区域とは」であります。計画を効果的に進めるためには、最初から市内全域を対象として計画に取り組むことは難しいことから、第1期では「文化財保存活用区域」という地域単位で措置に取り組み、その成果をモデルケースとして確立いたします。第2期以降では、このモデルケースを手本や参考事例として、他地域でも効果的に措置を進めていきます。文化財保存活用区域は、歴史文化資源が集積しており（「まもる」視点）、保存・活用を推進するための観光施設等が所在し（「いかす」視点）、保存団体等によって既に盛んに取組が行われている（「つながる」視点）といった視点を考慮して、6区域を設定いたします。

まず、「①蔵建ち並ぶ町並み区域」ということで小荒井×小田付地区であります。次に「②古代・中世に栄えた要衝区域」ということで慶徳・塩川西部地区であります。次に「③水運でにぎわった河川と雄国山麓区域」ということで塩川東部・熊倉地区であります。次に「④北境へ延びる街道区域」ということで松山・上三宮・岩月・熱塩加納地区であります。次に「⑤山岳信仰が息づく大河の合流区域」ということで山都地区であります。最後に「⑥太古の地層が広がる文化交流の大動脈区域」ということで高郷地区であります。この中でそれぞれの取組を推進してまいりたいと考えております。

続きまして、「7 この計画を推進していく体制」についてであります。本計画は、所有者等、地域、市民、関係団体等が行う取組に、市が連携・協働し、必要に応じて専門機関等や専門委員会等、県、国に報告・相談を行うことで推進していくこととしております。

喜多方市文化財保存活用地域計画（案）の概要の説明については以上となります。

●遠藤市長

ありがとうございました。

ただいま所管課より「(2)喜多方市文化財保存活用地域計画（案）について」説明がありました。委員の皆さまからご意見等あればお願いいたします。高橋委員。

●高橋委員

本計画の資料についてはデータ化されるのでしょうか。

また、今回の概要版については、市民へ配布されるのでしょうか。

●遠藤市長

これ点についてどうでしょうか。文化課長。

●伊藤文化課長

資料のデータ化につきましては、ホームページからダウンロード等できるようにしたいと考えております。

また、計画の概要版につきましては、全戸配布を検討しております。

●遠藤市長

他にありますでしょうか。高橋委員。

●高橋委員

「まもる」「いかす」「つながる」という部分については、まずは「知る」ということが重要と考えております。特に、「まもる」「つながる」については、過去に失われてしまったものが多くあることから、この部分は急いで取り組まなければならない内容と考えますが、対応をお願いしたいと思います。

●遠藤市長

この点について現状も含めて回答をお願いします。文化課長。

●伊藤文化課長

風習的なものなど映像で残していけるものは現在取り組んでおります。

こうしたできるものから取り組み、早急な対応をしていきたい考えであります。

●高橋委員

過去の風習的なものもありますが、現在の若い世代の文化も大切にしていきたいと思います。（要望内容）

●遠藤市長

要望として受け止めます。他にありますでしょうか。大場教育長。

●大場教育長

この計画を見た時に、喜多方市の特徴を大きな3つの視点で表していることや、文化財保存活用区域を可視化できていることが素晴らしいと感じました。例えば、「6太古の地層が広がる文化交流の大動脈区域」とありますが、こういった所に注力すれば、観光などへ生かしていけると思います。今回の計画を見て、どんなまちづくりをしていけるか考えられるものにぜひしてほしいと考えます。

●長田委員

今ほどの意見に関連して、各文化財保存活用区域として6つ挙げられておりますが、それぞれにストーリー性があるものと感じました。この計画からさまざまな事が考えられますので、市の各部署にも共有していただければと思いました。

●遠藤市長

ありがとうございます。他にありませんでしょうか。高橋委員。

●高橋委員

この計画があれば、公民館事業にもつなげることができると感じました。

早速ではありますが、これをもとに何か公民館でできることはないでしょうか。

●遠藤市長

この意見についてどうでしょうか。文化課長。

●伊藤文化課長

本計画は今年度末策定を予定しております。事業実施にあたっては、各公民館長とも相談をさせていただきながら、検討させていただきたいと思います。

●高橋委員

歴史や文化に関する事業は既に公民館でも行われているものもあります。学ぶだけでなく、文化財等を保存したり、つないでいくためには今後どうしていけば良いのかという個人の意識付けが必要であると感じました。

●遠藤市長

市全体の内容として何かありますでしょうか。企画政策部長。

●小野企画政策部長

本市においても地域資源がさまざまありまして、これにより地域の活性化にもつなげていければと考えております。個人的なものではありますが、過去に塩川町から高郷町まで「リバーツーリズム」ということで、カヤックで川を下った経験があり、これを観光商品化できないかという取組をしたことがありました。約10年前の内容ではありますが、地上から見る景色と川から見る景色とでは見えるものが全く違うものであると思い出しました。本市にはこうしたそれぞれの地域に眠っている宝が多くあるため、ブラッシュアップすることで、本市の更なる発展・観光振興へつなぐことができるものと考えております。

●遠藤市長

その他ありますでしょうか。なければ、「(2)喜多方市文化財保存活用地域計画(案)について」は、このような形でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは意見を出していただいた委員の皆さまに感謝をし、進行を交代いたします。

●小野企画政策部長

ありがとうございました。それでは「4 その他」になります。委員の皆さまから

何かございますでしょうか。

特になければ、以上をもちまして、令和４年度第３回喜多方市総合教育会議を閉会いたします。大変ありがとうございました。

以上